

## 公益財団法人国民工業振興会 講演会

### 「時代が求める人物像について」

主催 公益財団法人 国民工業振興会

共催 公益財団法人 溶接接合工学振興会

日刊工業新聞社

東京産業人クラブ

後援 東京商工会議所 本部・品川支部・大田支部

公益社団法人 日本技術士会

日時 平成 29 年 3 月 16 日(火)14 時 00 分～16 時 00 分

場所 ニューオータニイン東京 3 階「おおとりの間」



1. 挨拶 公益財団法人 溶接接合工学振興会 理事長  
東京大学名誉教授

野本敏治氏

2. 講師紹介 公益財団法人 国民工業振興会 専務理事

公益社団法人 日本技術士会 参与 ・ 金属部会名誉部会長

吉武進也氏



(公財)溶接接合工学振興会

野本敏治会長



(公財)国民工業振興会

吉武進也専務理事

3. 講演「時代が求める人物像について」

経済産業省 大臣官房 技術総括審議官

谷明人氏

「時代が求める人物像」について、世界的な視野で、その人物像、業績、技術開発内容等を広範囲に紹介され、将来の社会・技術開発に関して示唆に富む講演が行われた。

1) ビル・ゲイツ(マイクロソフト社)と堤義明(西武グループ)他について

講演の最初に、米国の経済誌「フォーブス」が発表する世界の個人資産番付では、米国のビル・ゲイツが全米長者番付で1995年から連続21年間第1位、総資産額810億ドル(8兆

8300億円)で、1994年～2006年まで連続世界一を継続、2016年度については10位までの



個人名を挙げられた。マイクロソフト社の創始者ビル・ゲイツは、19 才でマイクロソフト社を設立、1995~2009 年まで連続 13 年連続して世界一位を継続し、2014 年から 2016 年でも世界一位にランクされている。一方、特筆されるのは、「フォーブス」のランキングで、1987 年から 1994 年まで 8 年間日本人が 1 位を独占し、特に、堤義明がその間の 6 年間トップを占め、2 年間は森泰吉郎が占めた。

講演では、日米の二人、ビル・ゲイツと堤義明の軌跡を追って紹介された。

1970 年にビル・ゲイツはポールアレンとレークサイド・プログラマーズ・グループを結成、ビジネスルールを制する者が世の中を制するとして、「どの机にも、どの家庭にもコンピューターを」との発想で、彼等が標準を確立した。ビル・ゲイツは発明家と企業家の二重の才能を持っており、技術能力や専門能力の上に、際立ったビジネスセンスも持ち合わせていた。また、二人は役割を分担し、新たな会社運営スタイル(自社株購入権、裁量労働制、フリードリンク、自由な服装規定、ブランド戦略等)を確立した。また、GUI (グラフィカルインターフェース) を導入して、操作を絵や図示する等、情報の提示や入力にグラフィックスを多用する斬新な手段を導入した。

一方、堤義明は、世界で最も成功したビジネスマンと言われ、地域開発としての電鉄を中心に、駅の周りにニュータウンを作り発展させた。その事業は、都市交通沿線事業、ホテル・レジャー事業、不動産事業、建設事業、ハワイ事業他と多岐に亘り、各地のプリンスホテルを旧皇族・華族家の跡地に建設した。堤家の家憲は、「友達を作るな」、「優秀な人材はいらない(上の命令に忠実であればよい)」、「株の買収せられたり、過半数の株を買収して乗っ取られない様にせねばならぬ」であった。

ビル・ゲイツと堤家の相違点・類似点を比較すると、前者が、一代短期間成長、ソフトウェア、世界的広がり、新しいビジネスモデルに対して、後者は、世襲、既存価値基準(土地)、電鉄中心と日本中心であった。



更に、日本の企業の中で永続している注目すべき企業として、住友を取り上げて、その創業の精神を説明され、近江商人商売十訓を紹介、世間・買い手・売り手の三方よしの概念を紹介された。住友グループは新居浜の別子銅山が発祥の地で全国に一大事業を展開している。住友鉱山で精錬時に複製する硫黄を活用するための化学事業、この他数多くの企業が誕生し、現在活躍している。

## 2) 未来へのビジョン

軍事技術からの転用例として、パソコン、IC、インターネット、光ファイバー、携帯電話、デジタルカメラ、電子レンジ、テレビゲーム、グローバル・ポジショニング・システム(GPS)、原子炉等が紹介された。

世界を変えた人として、ものづくりの世界では、まず、ヘンリー・フォードを取り上げ、

「長靴を買うように車を買える」ことを目指した、その自動車開発事業内容を詳細に紹介し、更に、フォードの「誰でもアイデアは思いつくことはできる。肝心なのは、それを実際に役立つ製品へと開発していくことだ。」「安楽な生活程いやな物はない。私たちは、誰一人として楽をする権利はない。文明の世の中で、怠け者の居場所などどこにもない。」等の名言を紹介された。

カメラ及びフィルムの開発者であるイーストマン・コダックについては、その経営理念は、大量生産、製品の低価格化、現像・焼き付け事業の国内外での販売、実際の商品を用いての宣伝・販売を行い、理想的な大企業として、社内の有能な人材を最大限に活用した。自社所有の株の1/3を従業員に提供、社内保険制度、ボーナス制度の導入を行い、金を困っている人のために役立てて楽しむとの言葉を残している。

発明家+事業家+慈善活動家のアニタ・ロディックは、池上彰著の「世界を変えた10人の女性」に採り上げられており、世界で最も有名な女性実業家であり、動物実験をしないことを前提に企業運営し、CSRに一石を投じた女性で、キャンペーンと良いビジネスは破壊的な行動や人権侵害に反対するだけではなく、前向きな解決策であるとした。

また、ソニーの盛田昭夫氏は、設立式での挨拶で、大会社でできないことをやり、技術の力で祖国復興に役立てるとし、社会を変えたトランジスターの開発された後に、トランジスターラジオを開発に成功し、社会を変えたと言われる。

講演の最後に、米国の急成長産業の創業者たち(マーク・ザッカーバーグ(フェースブック)、ラリー・ページ、セルゲイ・プリン(グーグル)、スティーブ・ジョブス(アップル))を挙げて、日本からイノベーターは産まれるか?と問い、ヘンリー・フォードの「いつの時代も問題を抱えており、それなりの解決策を見つけないといけない」、ラリー・ページの「人々の暮らしを改善する方法は無数にある。テクノロジー企業が取り組んでいるのはそのうちの1%だ。99%は、未開の領域だ。」「クレージーでないようなことをやっているのだったら間違ったことをやっているのだ。」等の感動的な教訓を挙げて講演を締めくくられた。

## (配布資料)

- 1.平成29年度 経済産業政策の重点
- 2.平成29年度 経済産業省関係 予算案のポイント
- 3.平成29年度 資源・エネルギー関係予算案のポイント
- 4.平成29年度 中小企業・小規模事業者関係予算案のポイント
- 5.平成29年度 知的財産政策関係予算案等のポイント
- 6.平成29年度 産業技術関係予算案の概要

### I 次世代の市場創出につながる戦略的基礎技術研究開発の推進

- (1)人工知能、ロボット、ドローン、IoT等の国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター等を中心とした研究開発、基礎整備の加速
- (2)ナノテク・材料分野等に対する戦略的研究開発の推進

(3) 革新的エネルギー・環境技術に対する研究開発や CCS 技術の実証・開発の推進

(4) 健康医療分野の活性化

(5) ものづくり産業の高度化等(航空機、衛星、ロケット、海洋資源調査等)

II イノベーションを生み出す環境整備

III 福島・被災地の復興加速

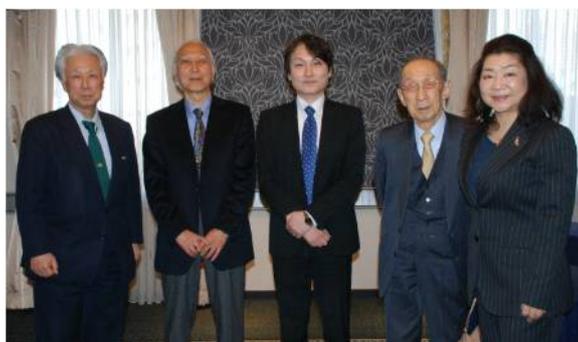
7.経済産業省関係 平成 29 年度税制改正のポイント



聴講風景



質問を戴いた方々



記念撮影



記念撮影



ご挨拶と名刺交換

謝辞



公益社団法人日本技術士会 奈良人司専務理事